

全国盲ろう教育研究会 第4回研究協議会報告

<8月10日>

講演「光道園における盲ろうの利用者への支援について」

社会福祉法人 光道園 高田 涼子・松ヶ谷 容子 氏

(以下に、講演の概要を掲載いたします。)

高田 涼子 氏

石川県は知っているけれども、福井はどこ？とよく聞かれます。人口81万人、鯖江市は人口7万人。その鯖江市に光道園があります。

全体的な概要・利用者の様子などを、話した後、松が谷より実践報告を致します。

最近の自立支援法で施設はいらないと言われていますが、光道園は大きな施設です。(航空写真を提示しながら)田園地帯の中にあります。光道園の特徴のひとつは、視覚障害者を中心に視覚と他の障害を併せ有した方が中心の施設ということです。二つ目は、利用者は全国から集まってきて、県内の方は数人という点です。利用されていない県は5県程度です。3つ目は、段階別に分かれていることです。全体で450名利用しています。盲聾者も利用できるように特別養護老人ホームにして現在200名が利用しています。

光道園を創設した中道 益平氏は自身が中途失明者で、身体障害者施設の中で出会った盲重複障害者の人のことばから、どんなに障害の重い人でも働くことが大切だと光道園を立ち上げました。

自分で自分の事ができる人、全面支援の人など、いろいろな方がいますが、当たり前な生活を追求しています。自分のことはいろいろ選択して決めています。パンを食べようか、ご飯にしようか自己決定した生活があります。しかし、縛りはあります。今日は1時半までには行くとか、休む時には連絡するとか、ルールがあります。集団ですから、何時に食事が始まるなど、決まりの多い生活です。そこを私たちの生活に近づけ、当たり前のくらしにしていきます。起きる時間は自由です。土・日の外出は自由という取り組みをしています。その人がその人らしく暮らせるようにしています。

もう一つ、光道園で大事にしているものは、一人一人が違うということです。人は生産し、成長発達していくものであるということ、成長していく過程であるという捉え方をしています。教育の意味を問い直しています。例えば、ガラスを割って泣いている人がいました。「どうしてか!？」というのではなく、「どうしてそうしたか」ということを考えます。問題の人ということではなく、私たちの取り組みや関わりに障害があると考えています。

それでは、盲ろう者支援に入ります。もともとはヘレンケラーの名前をとってヘレンホームと言っていたので、その名で紹介します。誕生は昭和45年で30数年前でした。鉄筋の二階建て、対話室は学習室に変わり、工作室などいろいろあります。図面を見ましたが、建設当時にこれほどの建物を作ったというのは素晴らしいと思います。また、15人の利用者に10人のスタッフ、考えられないほどの人数です。普通はスタッフは3~4人位です。15人のうち、盲ろう者の方が8名、あと7人は重度の盲重複の人です。全て介助を必要とする人々です。15人のグループに10人のスタッフで、個別の担当です。「外へ出よう」が合い言葉で、歩くことがままならない方もいますが、キャンプやボーリングなどに行きました。

ヘレンホームではどういった支援をしているのか。まず、先天的聴覚障害者で進行性の視力障害になった人や先天視覚障害者、目が不自由になり、働けなくなった人や未就学の人、一回も学校に行ったこと

のない人がいらっしゃいます。

生活面は、目が見えていた時に覚えたので、生活動作はできます。しかし、お風呂に入るなどは目が不自由で怖がり、介護が必要となります。その中で、出来ていたことを続けて出来るように、また、小さな事でも出来なかったことを出来るようにしています。

活動・学習が大きな柱です。学習室があり、マンツーマンの指導ができます。学校教育と施設の機能としての学習機能は本当はまったく別だと思いますが、ヘレンホームでは、それを重なり合うものとして学習を取り上げています。本人の思いをスタッフに伝えることが生活の中で重要なので、点字学習をやっています。ろう学校で身振り手振りを覚えていた人もいますが、その中に指文字なども獲得している人もいます。点字、指文字から物の名前、数なども学習していきます。学校には期限がありますが、施設には期限がないので、その人に合わせたペースでやることができます。楽しい経験として、調理でみそ汁を作ったり、おせち料理を作ったりします。縫い物、木工などの活動もあります。人との関係が広がるように広報活動をしています。「カンコミ」という冊子を作って、広報しています。

事例を報告します。未就学のHさんです。全ろうで9歳の時に失明し、全盲全ろうで、22年間厚いカーテンの部屋にとじこもりの生活をしていました。部屋に紙やはさみがあり、手先が器用で、犬などを作っていました。31歳で入所し、課題学習をはじめました。見本合わせの様子です。(写真を提示しながら)これが本人が作った犬、キュウリ、靴下、はじめの写真はキュウリを触ってもらい、それと点字を合わせています。見本合わせとありますが、分類操作です。ここに水、コップを用意しておき、コップを触りこれと同じ物はどこかと操ってもらう。実物と点字の対応で物を覚えました。問題は指文字の形の真似ができないことです。指の固定ができず、悩みました。模型をシリコンで作りました。模型を触って形を真似ます。物と指文字の対応、物と点字の対応ができるようにと考えました。文章まではいきませんでした。大きな病気をして残念ながら亡くなりました。

もう一人関わっている方の事例です。弱視全ろうの方。盲学校を卒業し、入所しましたが、衣類を着ていませんでした。自分のペースで生活しています。例えば、お菓子などを並べて、食べたいときに食べる、トイレでトイレをしないなど。外部の人が来られた時にどうしようかと思うくらい、生まれたまま。昼夜逆転の生活から、夜はお休みになって昼間起きている状態。今はトランクスをはいています。脱いでいることも多く、食事は握りばしで食べています。盲学校の先生に連絡して、学習していた時の状態を8ミリでみせてもらいましたが、給食当番などやっていて、卒業後の継続ができなかったということで、再学習をしよう、その人らしく生活をしてもらうように学んでいます。ベンチで寝ていたのが、ベッドで寝るようになりました。トイレはまだなかなかトイレでは難しい状態です。本来の彼の力を取り戻していただきたいと思っています。

活動の例です。(映像を提示しながら説明)木工は男性が好きな方が多いです。この方は、失明前は趣味でやっていたようです。これが調理、この方は白玉ぜんざいを作っています。生け花は、お花の先生に教えていただき、発表会にも出しています。これは行事、ひなまつりで、ご自分がひな段に座っています。これはかかしの踊りのまねをしようとしている所。これは節分の日に豆を移すゲームです。これはサンタ園長が来ますので、ひげをひっぱって喜んでいる様子。これは缶を積み上げるゲーム。これは劇、職員がつくり、利用者が演じています。これは地引き網、魚を触っていました。りんご狩りに行って、自分でとったりんごでパイを作りました。旅行に行って、越前ガニを食べている様子です。海水浴にも行きま

した。地域交流です。近くの小・中学校へ行き、お互いに喜んでいきます。東京のつばさ高校の学生が来てくれます。これは廃品回収への協力、缶を集めて洗い届けて、地域へ協力しています。

このような素敵な笑顔と感動とありがたい思い、また、笑顔をもたらるように考え、努力していきたいと思えます。

松ヶ谷 容子 氏

光道園 光が丘ワークセンターは身体障害者授産施設で、主に視覚障害・聴覚言語障害を持った重複障害の方が仕事をしながら生活しています。仕事は委託作業、さをり織り、竹細工、クッキー、そして昨年から新たにパン事業が加わりました。メンバー(利用者の方)はそれぞれの作業に分かれ、朝から夕方まで作業に取り組んでいます。

これから話す内容はメンバーの一人のNgaさんと係わってきた約2年半の話です。Ngaさんから学んだ事、気づかされた事、考え直した事、悩んだ事、その他いろんな思いを抱いた事等を話したいと思えます。

はじめに

Ngaさんは両側高度感音難聴による聴覚言語障害(1級) <両耳100dB以上>、両眼網膜色素変性症と両眼白内障による視力障害(2級) <白内障が進行し光覚のみ>の重複障害を持っている現在50歳の男性です。

Ngaさんは、ろう学校の小、中、高等部を卒業後、一般会社に就職し、約15年間、機械部品の製造に従事していました。しかし、肺結核を発症したため、約1年間療養に専念することになり、退職を余儀なくされました。そして退職後、母とともに兄世帯と同居され、再就職も考えたのですが、昭和60年頃から視覚障害があらわれ、徐々に視力低下・視野狭窄が進んできたため、就職をほとんどあきらめざるを得ない状況になりました。それでも数年の間は、自分で外出して日常の買い物をしたり、ときには母と一緒に旅行をしたりすることもあったようです。しかし、平成2年3月に母が亡くなってからは、ほとんど外出もしない状態となり、また、母に代わって兄の妻が身の回りの世話をするようになったのですが、意志疎通が十分にとりきれない状態だったそうです。そのため、家族からの申し出によって施設入所が検討された結果、平成3年10月K市聴覚言語障害センター(聴覚言語障害者更生施設)を利用する事になりました。しかしその後、視覚障害がさらに進行して全盲の状態となったため、より適切に対応できる施設への措置変更が検討されることになり、平成8年9月に当施設へ入所となりました。

現在Ngaさんは、のりのフィルムはめ等の仕事をしています。

1. 1年前のNgaさんの様子

Ngaさんはいつも洗面器を両手で前方に持ち、人と正面から当たらないように後退しながら歩いています。また、朝食以外の食事はペットボトルに水を入れたものを持参し、食物をその水で洗いながら食べています。そして、入浴はというと、体を清拭という形で拭いています。しかし、洋服の上に石鹸をつけている事もあり、衛生的に良いとはいえない状況です。

そんなNgaさんに会って、最初『なぜ、食事を洗い、お風呂にも入らないのか』また、『なぜ彼とのコミュニケーションである手の平に文字を書いた後、汚い物を触った後のように、手を服で拭いたり払ったりするのか』等が気になりました。そして、以前からいる職員に原因を聞くと、当施設を利用する前、他の施設で食事の中にゴミやフケ等を入れられた事があつたらしいという事で、Ngaさんの行動背景が見えてきま

した。

Ngaさんの見えなくなっただけからの不安は想像以上に大きなものだったに違いありません。今の行動を見ていると、Ngaさんは自分以外の人を信じる事が難しくなってしまう、自分の殻に閉じこもった状態に近くなってきています。

そんなNgaさんを見て『どうしたらNgaさんの不安を取り除き、安心感を持って頂けるのだろうか』『私という存在を知って信じてもらいたい』という思いを抱き、まず最初に私という存在を知ってもらうために、コミュニケーションを多くとり、私もNgaさんを知ろうと考え係わる時間を増やすようにしていきました。

2. 私の存在を知って欲しい

Ngaさんとのコミュニケーションは、手の平に字を書くことです。

最初の頃、私が手に文字を書いても全く反応が無く、ちゃんと伝わっているのかどうか不安でした。また、手の平に書いた後、手を“ぱっぱ”と払い、洋服で拭くという行動が気になりました。

そんな中、他の職員の対応では、職員の手の手平に自分の気持ちを書いていらっしゃるのを見て『どうしたらあんなふうにコミュニケーションがとれるのだろうか。私の係わり方のどこが悪いのだろうか』等、大変悩みました。そして、職員の接し方を見たり、どうしたらいいのかを聞いたりしました。

そして、職員のアドバイス(自分のサインのようなものを決めるといい例:名前を書いてから鼻や頭を触ってもらう等)から、私は、まずNgaさんに“松ヶ谷という女”がいるという事を知ってもらおうと思い、1日に2回は接する時間を持つと決め、簡単ではありますが、「(松ヶ谷です)〔小指を摘む(女)〕〔耳に手を触れてもらう(私のサイン)〕 (おはようございます) (今日も頑張ってください)」等の係わりを持ちました。

◇内はNgaさんの手に文字を書いたものを表示します。尚、以下の文章でも同様です。

□内はNgaさんに対して行った動作を表記します。尚、以下の文章でも同様です。

また、他の職員との違いも見つけ、真似てみたりしました。その違いとは「Ngaさんに情報を伝えたり、質問した時、Ngaさんの手を自分の手の上に置く」という事です。私は、質問するだけで、その後はただ待つだけでした。しかし、他の職員は質問した後、必ず自分の手の平をキャンパスのようにして待つのです。するとNgaさんは、手の平に気持ち等を書き、自分の声を伝えているのです。私はその光景を見てから、それらの事をいろいろとおりまぜて接していきました。

すると、最初は話し掛けても何の反応も無かったのですが、少しずつ変化が見られ、念願の手の手平に字を書いてもらうことができました。些細な事ですが、私にとっては前進であり、とてもうれしい出来事でした。

3. 伝える術の大切さ

Ngaさんと係わるにつれ、一度、新人研修で実施したことを思い出しました。

あの時、手に「おしょくじけん」等を書き、それをどう捉えたかを書くゲームのような事をしたのですが、ある班は「汚職事件」、もう一つの班は「お食事券」と捉えたのです。そして、今までNgaさんに対して、そのような捉え違いがないように、しっかりと情報提供をして接していたか振り返ると、自分自身、そのような余裕がなく、ただ単に朝礼で言われていること等を伝えているだけだったと反省しました。そして先日、時計の時間が合っているか確認した時、9時55分だったので、私は、「(今、10時5分前です)」と何気なく伝えました。するとNgaさんは少し手を止めて首を傾げ、時計を10時05分に合わせました。私は慌てて、「(ごめんなさい。9時55分です)」と伝え直しました。私は9時55分であるという事を伝えなかったのに、5

分前ですという捉え間違い易い言い方をしたのために、Ngaさんを迷わせるような結果になってしまいました。「少し待って下さい」も、盲ろうの方にとってはどれだけ待てばいいのかわからず、相手に嫌悪と不安を持たせてしまいます。ちゃんと、捉え間違いのないような伝え方、また、待っていて頂く時は、どれだけ待てばいいのかわ、なぜ、待たなければならないのかも伝えなければならないと実感しました。

また、私は今まで、Ngaさんと係わりをもつ時、いつも手の平ばかり見ていました。しかし、このままでは表情やちょっとした変化等が分からないと気づき、最近になって、やっとNgaさんの顔等を見て係わるようになりました。そして、手の平に文字を書いている時、その発信に対して様々な表情や身振りをされたり、時々、声を出して伝えたりしている事に気づきました。ただ、何を言われているのかが読み・聞き取れず、とても切なく申し訳ない気持ちになる事がたくさんあります。相手が伝えようとしている事を理解出来ないというのは、大変心苦しく、もどかしい気持ちになるのだと、強く実感しました。

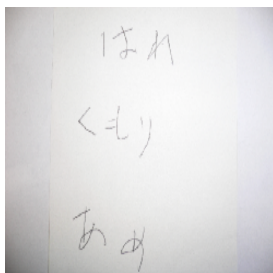
4. コミュニケーション方法の大切さ

私は今まで「暑くないですか」「お風呂に入った方が気持ちいいですよ」等といった、自分の感じた事をそのまま声掛けしていることが多い状態でした。また、YES / NO形式の声掛けが多く、Ngaさん自身に判断して頂ける係わりが少ない状況でした。そのため、Ngaさんと話しはするものの、何に興味を持っているのか、どのような情報が欲しいのか等分からず、ただ話し掛けるだけで1日が終わってしまいました。そのため、色々と考え、後日から話し掛けの方法、接し方の方法を変えました。

以前は、『松ヶ谷です』〔小指摘む(女)〕〔耳に触れてもらう(私のサイン)〕〔おはようございます〕〔月日曜日です〕〔泊まり (職員の名)です〕〔休み (職員の名)です〕〔今日の日課を伝える(例：時に散髪です。時売店、男・女からです等)〕〔仕事の時間はまだ分かりません〕〔今日も一日頑張ってください〕という係わり方をしていました。

しかし、この係わり方は、ただ、一日の最低限度の情報を伝えているだけに過ぎません。そのためNgaさんにとって、どんな情報が興味・関心を持っているのだろうと考え、以前の係わりの中に『天気・気温の情報』を入れてみました。気温を入れたのは「気温を分かって頂くことで、洋服も自分なりに考えられるのではないかとアドバイスを頂いたのを機に行いました。すると、最初は何の変化も無かったものの、7月30日の朝、私が“天気・気温”を伝えるのを忘れると、Ngaさんが、何か伝えてきました。何を伝えているのかわからなかったため、紙に書いてもらうと【はれ・くもり・あめ】(図1)と書くのです。私は、慌てて“天気”を伝えました。その後、何回か天気を伝え忘れる事があったのですが、その度に身振りや手話で天気について聞いてきました。Ngaさんは、いつも伝えているのに、なぜ伝えないのだろうと思い、私に聞いてきたのかもしれない。また、晴れた日にはペットボトルや鏡、洗面器等を目にかざし、光が見えるかどうか確認しているように窺えるので、天気に興味があり聞いてきたのかもしれない。また、他の理由があったからかもしれません。いずれにせよ、Ngaさんからの意見の発信があった事が、私にとって大きな前進でした。

(図1)



5. 昼食(選択メニュー)

光が丘ワークセンターでは、土曜・日曜日以外の昼食は選択メニューがあります。選択は2つですが、選んで 食べられるという事は他のメンバーにとっても、一つの楽しみになっているようです。

*メンバー = 入居者の方を“光が丘ワークセンター”ではメンバーと呼んでいます。

今までは、Ngaさんにも他のメンバーと同じように、席に着かれてから、2つのメニューを伝え、選択してもらっていました。しかし、聞くのが遅くなった場合、声を出したり、もう、いいません等といった事があするため、栄養士さんや調理員さんも、なるべく早くに聞くといった係わりをされていました。

私は、そのような光景を見て、朝の係わりの中で今日の昼食選択メニューと一緒に聞いてみてはどうかと思い、さっそく試みてみました。係わり方は下記の通りです。

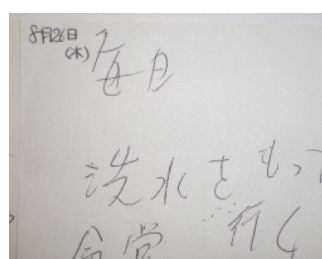
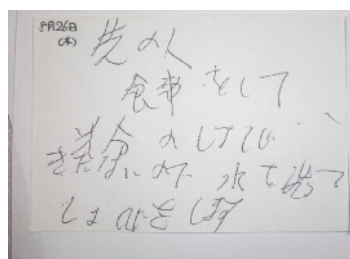
～朝の係わり～
『(松ヶ谷です) (小指摘む(女)) (耳に触れてもらう(私のサイン)) (おはようございます) (月 日 曜日です) (天気を伝える) (泊まり です) (休みです) (今日の日課を伝える(例： 時に散髪です。 時売店、男・女からです等)) (仕事の時間はまだ分かりません) (お昼、) (人指し指を摘む(メニューの一つを表す)) () (中指を摘む(もう一つのメニューを表す)) (どちらがいいですか) (手の平にNgaさんの手をのせる(手の平をキャンパスにする)) Ngaさんが私の手の平に書く (分かりました ですね) Ngaさんうなずく (今日も一日頑張ってください)等』

時々、朝の時間が無かったり、昼食を聞くのを忘れてしまう時があるのですが、毎日、コミュニケーションはかかさずとろうと心に決め、Ngaさんとの時間を多くとるようにしていきました。

そして、選択を聞くうちに、Ngaさんにとって、“はるまき”や“冷やし中華”等といったものは、どのような食べ物か分からないという事が分かってきました。そして、伝える時には、分からない物は中に入っている物や作り方を伝えると良いとアドバイスを頂いたので、伝え方も変えていきました。すると、選択する時間が少し長くなり『今日、何が食べたいか考えていらっしゃる』と強く感じられるようになってきたのです。

しかし、毎日水で洗う日が続きます。私は、どうしたら良いか気持ちだけが焦ってしまい、憤りを感じていました。

そんな時、一度Ngaさんに“なぜ洗って食べられるのか”聞いてみてもよい時期ではないかと思い、Ngaさんと話してみました。するとNgaさんから【先の人 食事をして 半分のしょくじ きたないので 水で洗って しょくじをします】【毎日 洗水をもって 食堂 行く】と応えが返ってきたのです。私は、【大丈夫ですよ、汚くないです。残り物ではありません】と伝えました。



しかし、Ngaさんの表情は眉をしかめ、手を左右に振ります。そのため、もう一度(大丈夫ですよ)と伝え、表情はそのままで、うなずきました。

そして、昼食時、席に着かれたNgaさんに、どこに何があるのかを伝えると同時に、(松ヶ谷です。きれいですよ。そのまま食べても大丈夫です。私を信じて下さい)と、伝えました。Ngaさんは、一度、水の入ったペットボトルを床に置き、皿に顔を近づけ臭いを嗅ぎました。すると、声を出して眉をしかめ、首を傾げ、皿に水を入れ洗って食べました。

6. 試み

Ngaさんの食事風景を見ると、必ずといっていいほど、臭いを嗅ぎます。おそらく、何か分からないからとか、臭いで食べるかどうか考えているのかもしれませんが、また、箸がつけられていても、手で食べられる事が多いです。

なぜ、そのような行動をとるのか分からなかったため、一度、Ngaさんと同じ条件で食事をしてみようと思い、アイマスクと耳栓をして食べてみました。すると、次のような事を感じたのです。

食事が何か分からないため不安になる。

不安なため、臭いを嗅ぐ。

鼻に付くぐらいまで皿を近づけなければ、臭いが分からない。

(臭いが弱い食べ物だったからかもしれないが)

箸で食べると、見て食べる時と違って、口に運ぶのが難しい・たくさん口まで運べない。

自分が今、何を口の中に入れたのか分からない。

集中力がいる。

食事が楽しくない。

私が、今まで見て食べていたため、上記のような事を感じたのかもしれませんが。しかし、Ngaさんも、最初は見えていらっしまったため、少なからず、このような感覚を持ったのではないのでしょうか。だから、箸を使わず、手で食べた方が口に正確に持っていきやすいという事で手で食べているのではないのでしょうか。

また、酢の物系は、臭いを嗅いでから捨てるのも、もしかしたら、腐った物を出されていると勘違いされているからかもしれません。それか、ただ単に、酸っぱい物が嫌いなだけなのかもしれません。はっきりした事は分かりませんが、私自身、これを実践してみて、少し、Ngaさんの気持ちが分かったような気がしました。

7. 洗わず昼食を食べた日

8月 昼食 = “焼きそば”の日(その他:パン・梨)

Ngaさんは麺類が好きで、特に“うどん”を好んで食べます。以前から麺類の時はあまり洗わないと聞いていたので『水をかけずに食べられるのではないか』という期待と不安でNgaさんに、メニューと場所を伝えました。すると、Ngaさんは臭いを嗅がれ、水をかけずに食べたのです。また、食べる様子を見ると、箸も上手に使っています。私にとって、水をかけないで食べたのを見たのは、初めての事であり、とてもうれしくなりました(朝食は毎朝袋に入った食パンのため、洗わず食べられますが、昼食・夕食は水をかけられて食べられるため)。

しかし、うれしさとは裏腹に「箸は上手に使えるのだ」という事が分かり、「なぜ、普段の日は箸を使わないのだろう」という疑問が強くなりました。

8. 一緒に料理！

自分以外を信じる事が難しくなっているNgaさん。それなら『自分で食事を作ってもらってはどうか』『Ngaさんと一緒に何か作りたい』と思うようになってきました。そして、ちょうどその頃、他のメンバーのTnaさんと一緒に文化祭で当たった“手作りセット”の中の黒糖蒸しパンを作る機会がありました。TnaさんはNgaさんと一緒に重複障害を持っています。

まず、Tnaさんに卵を割って頂き、Ngaさんに、粉と水、油・卵を合わせ泡だて器で混ぜてもらいました。Ngaさんの手つきを見ていると、ただ、「混ぜて下さい」と言っただけなのに、しっかりと左手でボールを持ち、大きく混ぜています。私は以前、メンバーと一緒にクッキーを作っていたのですが、ボールが動かないようにしっかりと手で固定し混ぜることは、大変力が要りバランスも必要です。また、混ぜた物をスプーンでカップに入れて頂いたのですが、これも、上手に左手で分量を考えながら入れていました。ここまでの様子を見るだけでも、以前Ngaさんが料理をしていたのではないかという事が窺えました。

次はいよいよオーブンレンジで焼きます。Ngaさんに食堂にあるオーブンレンジまでカップを運んで来てもらい、レンジに触ってもらいました。すると、不思議そうに首を傾げ、手で何かを回すような動きをしました。初め『何だろう』と思いましたが、すぐに、昔のレンジの形を表しているのだと分かりました。そのため、「今は回すのではなく、押すように変わったのですよ」と伝えると、何度も少し盛り上がったスイッチボタンを触り「押してもいいの？」と身振りで伝えてきました。タイマーをあわせ、スイッチを押して待ってもらったのですが、Ngaさんは終わったと同時にレンジに顔を向けられます。私は、Ngaさんは音が聞こえているのではないかと錯覚を起こしそうになりました。でも、Ngaさんは音が聞こえていたのではなく、ずっと触っていたレンジが止まった時の振動で顔を向けていたのです。その後、レンジから出してもらい、自分で作った熱々の蒸しパンを触ってもらいました。

9. みんなで食べよう

できあがった蒸しパンをクッキー作りのKmeさん・Myaさんと一緒に食べる事にしました。そして、Tnaさんにはできあがった蒸しパンの上に生クリームを絞り出してもらい、Ngaさんにはジュースをついで、一人一人に渡してもらいました。Ngaさんは一杯ずつ人差し指で確認しながらついでいきます。また、渡されたメンバーには“ありがとう”という意味を込めて、Ngaさんの手を“ぎゅ”っと握ってもらいました。Ngaさんには、「“ありがとう”という意味を込めて握っているのですよ」と伝えなかったのと、いつも他の人が触ったら、手を払う行動をとるので、今回どうだろうと不安を持ちました。しかし、下を向き次の紙コップについでいきました。また、蒸しパンを洗う事なく2つ食べました。

最初、TnaさんとNgaさんは普段あまりしゃべらず、係わりが少ない関係なので、2人で協力して作る事ができるだろうかと心配でした。しかし、私の心配とは逆に、TnaさんがNgaさんに合わせるような形で一緒に作る事ができました。また、みんなと一緒に食べ、係わりを持つ事ができました。今回のこの係わりがNgaさんにとって良かったかどうか分かりません。でも、Ngaさんとメンバーが係われた事は、メンバーにもNgaさんを知って頂く機会になって良かったと思います。

10. 自分でご飯をよそってみよう

『Ngaさん自身に自分のご飯をよそってもらってはどうか』『自分でよそったら水で洗わないのではないのか』という意見をもらい、さっそく、栄養士・職員と相談して試みることにしました。

まず、白ご飯をジャーに入れ、食器を戻すカウンターに置きました。Ngaさんには、席に着いてから手に「ご飯、向うに置いてあります。よそって食べて下さい」と書き、カウンターまで一緒に行き、自分で“し

ゃもじ”を使ってよそってもらいました。ジャーを開けると湯気がNgaさんの顔を包み、Ngaさんはご飯の匂いを嗅ぎ、茶碗いっぱいによそいました。そして、自分の席に着き、口いっぱいにご飯を入れ、白ご飯が無くなるまで食べました。最初『ご飯をよそって頂いたので、おかずのある事が分からなかったのだろうか』と思ったのですが、Ngaさんは食べ終わった茶碗をカウンターに戻し、また席に着き、今度は用意されたおかずを水で洗って食べました。

また、後日の“うどんの日”にも、自分でよそってもらいました。片手鍋にうどんを入れ、箸とおたまでよそってもらったのですが、これも水で洗わずに食べました。

Ngaさんは自分でよそった食事は水で洗われない。また、自分で作った料理は洗わない。だったら、自分で毎日毎日よそってもらったら、水で洗わず食べてもらえる。そうと分かったとたんに、心の中がドーンと重たくなり、何ともいえない気持ちになりました。

私自身、約1年接してきて、私の中でNgaさんは以前に比べ身近な存在になり、少しずつですが受け入れてくれているような気がしていました。しかし、今回の件で、私はまだNgaさんにとって信じてもらえる相手になっていないことがハッキリと分かりました。まだまだ係わる時間は必要です。もっともっと、話をして、Ngaさんにも私を知ってもらえるよう、信じてもらえるよう努力したいと思います。

11. ジャーを買いませんか？

『自分でよそったご飯は水で洗わず、温かくておいしい状態で食べて頂ける。ちょっと寂しいけれどおいしく食べて頂けるのなら、ジャーを買ってみてはどうか』と思いNgaさんと話してみました。するとNgaさんは手を振って【買わなくていい】と言い、買いたくなさそうでした。私の思いとしてはジャーを買って自分でよそう方向にしたいと思うのですが、Ngaさんが嫌だと言われる以上買うわけにもいきません。どうすれば良いのだろうと思うのですが、どうすれば良いか分からず、月日だけが流れていきました。

そして数日後、別の問いかけでNgaさんに話し掛けることにしました。私が【食事で食べたいものはありますか】と聞くと、【毎食パン】と書かれます。『毎食パンを食べたいということですか』と思い、Ngaさんに【朝はパンですが、昼・晩、全てパンにして欲しいという事ですか】と聞くと首を上下に動かし、うなずいているようでした。

その事を職員に話すと、以前も毎食パンにして欲しいと言っていらっしたようです。しかし、体のこと、今までのNgaさんの行動(パンは食べられるが、おかずをほとんど食べない等のためビタミン・Ca不足になっている)を考えると好ましくなく、朝だけパンになっているようです。

Ngaさんに【Ngaさんの体のことを考えると毎食パンは良くないので、朝だけパンではだめでしょうか】と言うと、手を振って険しい顔をします。

Ngaさん自身、パンが好きなのかもしれません。しかし、朝のパンを見てみると、パンはご飯と違いしっかりと密封状態になっていて、自分で開けなければ食べられません。つまり、誰も中身を触っていないことになり、安心が持てるのです。だから、毎食パンを食べたいのかもしれません。

どちらが理由が分かりません。また、別の理由でパンを食べたいのかもしれません。しかし、食べたいといわれる以上食べて頂きたいのですが、体の事を考えると難しい状況です。

12. しっかり洗濯

Ngaさんが、普段どのように衣類を洗濯しているのか、ずっと疑問をもっていました。また、ずっと、石鹼を衣類につけて、タオルで拭いているものとばかり思っていました。しかし、そんな私の考えとは逆に、Ngaさんは、ちゃんと自分で洗濯機で洗濯していたのです。洗濯機は、二層式を使われ、ちゃんと、洗濯

が終わると隣の脱水機に入れ替えます(洗う 脱水 水を入れ換える 手と洗面器を洗濯機の水で洗う 脱水したものを水の中に入れる)。おそらく、見えていた時に、ご自分でしていたのでしょう。今まで、Ngaさんの事を勝手に決め付けて接していた事を反省しました。

また、衣類の臭いが気になりはじめると、臭い取りのスプレーを衣類に吹きかけています。臭いも気にしている様子です。

13. お風呂って気持ちいいよね

生活支援でNgaさんの入浴支援を取り上げ、“デイサービスさざんか”で入浴して頂くことになりました。回数は少ないのですが、約1週間に1回、声掛けをして“さざんか”まで歩き、お風呂場まで誘導するという支援方法です。今までで約数回入浴されています。実際、私が声掛けするのではなく、男性職員が声掛けをし、一緒に行き誘導されます。一度その様子を見せてもらったのですが、Ngaさんは何回も来ているせいか、“さざんか”のお風呂場の位置や洗い場の位置も把握し、服を脱ぐ時も、ちゃんと籠を出し、入浴後は片付けるという行動をされていました。

なぜ、抵抗もなく入浴されたのだらうと思い“さざんか”のお風呂場を見ると、利用しているお風呂場は、ワークのお風呂場よりも小さく、位置把握し易い環境でした。また、利用しているのがNgaさんのみということで誰にも当たらず、人を気にしないで入浴することが可能でした。私はその環境を見て、以前、Ngaさんが[風呂けがのもと 魔浴]と書いたことを思い出しました。

ワークのお風呂場は洗い場も広く、入浴される時間も人によって様々ですが、ほぼ同じ時間帯です。また、以前、Ngaさんもワークのお風呂に入っていた話を聞くと、前にお風呂場で誰かとぶつかって危なかった事があり、それがトラウマになっている事が考えられます。そして、『何かにこだわっている時は、もっと大きい不安があるから』『こだわる事の意味合いは、生活の中に何か不安があるからではないか』というアドバイスを思い出すと、Ngaさんが入浴しない理由が少し分かったような気がします。

『入浴をしてもらえるようになって本当に良かった』と思う反面、Ngaさんの不安をどうすればいいか迷うことになりました。

14. それから1年後

係わりはじめて約2年。それでも、Ngaさんの行動は変わりませんでした。そればかりか、夜間不眠が続き、日中の作業もふらふらの状態。また、【霊界 悪魔 コンバット】等の言葉が多くなり、精神不安定な時期が続きました(以前から夜間不眠だったため、支援を考えていました)。そのためケース会議を行い、今後の支援方向を検討し、今の行動等が精神的なものか、病的なものかを探りました。

看護師からはNgaさんの夜間リズムをチェックし、様々な角度から検討した方が良いとのことで、平成17年5月から、夕食後～21時まで、21時～23時まで、23時～翌朝までを宿直職員で記録してもらうことにしました。そして、記録の際は、行動・表情・場所・発言等も記載してもらい筆談内容も紙のままもらうことにしました。すると、【なぞのれいかい あさまで まちつづける】【れいかいのけいかつ 巡廻中】等の言葉がででき、作業中にも銃で撃つ身振りや声を出すようになりました。夜間寝ていない事が体に何らかの影響を及ぼしたのかもしれない。

そして一ヵ月後、チェック表を持参し、看護師と3人で精神病院を受診。本人には、[心の病院に行きます]と伝え、本人承諾の上で行きました。その結果、夜間しっかりと寝て体調を整えることが大事ということで、21時の巡視時に投薬することになりました。

15. 睡眠がとれてから

最初は薬に慣れていないこともあり、「朝食時になっても起きてこない」「日中活動もふらふら」という状態でした。そこで医師と看護師と相談し、投薬時間を20時半に早め、薬もNgaさんにあった薬を調整し本人の負担にならないようにしていきました。最初はただボーッとしている事もありましたが、一ヶ月後あたりから顔色もよくなり、足元もふらつかず、日中活動に支障が出ることも無くなりました。そして夜間寝られる日が続き、“悪魔”等の言葉も出なくなり、それからNgaさんの行動が変わっていったのです。

16. 約1年後の食事・入浴

以前から支援していた食事と入浴。薬を飲むようになって睡眠も十分にとれるようになり、少し変化が見られるようになりました。食事では朝昼晩をパンにして欲しいと言っていたのが、その後話をし、食事をおにぎりにしたり、朝食だけパンにしたりとNgaさんの要望に栄養士と臨機応変に対応していきました。そしてNgaさんから、「K市で働いていた時、お盆に自分で選んでとって食べていた。そうしたい。」と言われてきました。「自分で選んで食べることは難しいけれども、食事をお盆にのせて用意することはできますよ」と応えると、首を傾げながらうなずかれたので、すぐに取り組みました。すると、今まで横を向いて食べていた姿勢がだんだん前向きになり、水も少しになりました。しかし、お盆の上で洗われ、食器返還の際他の入居者の方に水がかかり、苦情が出て、お盆で食べることをやめることになりました。そして、また横を向き、洗面器で食べる日が続いたのです。でも、食べる量は以前に比べはるかに多くなっていました。水で洗って食べるけれども、食べる量が増えたことは大きな前進であり、うれしいことでした。

そしてそれから約半年後の今年1月、Ngaさんと再度食事について話しをしました。すると意外な事に、Ngaさんから「お盆で食べたい。おにぎりをやめて おわんでご飯を食べたい」と身振り手話で話されたのです。すぐに対応すると、なんと水で洗われずに食べ、ちゃんと机に向かって座り、翌日の朝食の味噌汁も食べたのです。そして現在もちゃんと食事をして、約8割食しています。また、ごく最近なんですが、Ngaさんとユニークな係わりをしました。それは私が魚を残しているNgaさんを何度も見た時です。「Ngaさん、お魚きらいですか」と聞くと、「骨のないさかな よい 骨のあるさかな わるい」と応えが返ってきたのです。ちょうど私が見る時、いつも骨がある魚でした。「Ngaさん、魚が嫌いではなく、骨のある魚がきらいなんですね。これからは、骨のない魚を用意しますね」と伝えると、うなずかれました。Ngaさんから、ご飯(おにぎり・お椀で食べる等)以外の嗜好を言われるとは思っていませんでしたので正直驚きました。

また別の日、花壇に座ってお菓子を食べているNgaさんに、「おかし おいしいですか」と聞くと、お菓子の袋を差し出し、頭を上下に振られるのです。私は「食べて下さい」と言っているように思えたので、頂きました。「おいしいですね」と言うと、また頭を上下に振られました。今までのほとんどの係わりが、こちら側が聞いたことのみを応え、あとは“無言”ということが多かったのですが、最近は耳(私のサイン)を触ってもらうとすぐにうなずき、こちらが話し掛けなくてもNgaさんの方から話します。今ではNgaさんが私を信じてくれていると強く感じられます。

また入浴面では、以前と同様、さざんかでの入浴支援をしていました。しかし、食事を水で洗わないようになった頃、Ngaさんに声掛けをすると、「向うに行くの寒い ここのお風呂入ります」という応えが返ってきたのです。私は驚きのあまり声がでず、急いで男子職員を呼びに行き、入浴支援をお願いしました。そして、現在、約一日おきにワークのお風呂に入っています(人とぶつからないように見守り入浴)。本当は毎日入ってもらいたいのですが、声掛する度に「昨日 はいりました 今日は はいりません」と言い、眉をしかめるのです。ここで無理強いをすると、せっかく今まで築いてきた関係がその一つの行動により

白紙になってしまいます。いや、もう、今までのように係わりあえないかもしれません。Ngaさんの気持ちを大切にしながら、これからもゆっくり、ゆっくり歩んでいきたいと思います。

17. こんな携帯作って下さい！！

Ngaさんは、いつも首から時計をさげています。今使っている時計は、約2年前に新しく買ったばかりの物なのですが、最近時間がくるってばかりで、朝礼時間になっても、食事の時間になってもいらっやいません。理由は、洗面時に誤って水につけてしまったり、自分で時計を壊してしまったりすることが考えられました。そこで、時計を修理に出したり、掃除をしてもらったりしました。しかし、なぜか時間が経つとくるってしまうのです。そこで、また新しく時計を買い直そうかとも考えたのですが、金額が高いため大変悩みました。そして先輩職員に相談すると、「Thiさんが使わなくなった携帯電話があるから、Ngaさんに一度使ってもらってはどうか？」と言われ、さっそくNgaさんに話してみました。携帯電話は、盲ろうの方向名が使われているのですが、使用方法としては、アラームを“起床時・朝食時・朝礼時・午前の休憩時・昼食時・午後の仕事開始時・午後の休憩時・夕食時・就寝時”の時間を設定し、バイブで時間を知らせるという使い方です。

まずNgaさん自身、携帯電話を触った事もなく、何に使っているのかも分からない状態だったので、『起床時の朝6時30分にこの時計が鳴ります 他にも朝ご飯の時などに鳴ります この出ているところ(携帯の電源の所に点字を張った)を1回押せばとまります』等と説明しました。するとNgaさんは手を顔の前で振られ、まるで「いない」と言っているようでした。そしてNgaさんは手話で、(私 聞こえません 鳴っても 聞けません)と言われ、私は、「またやってしまった」と心の中で叫びました。だって、Ngaさんの言う通りなんです。この丸い折りたたんだ物体が時間になったら鳴って知らせてくれても、Ngaさんは(分かりません)としか応えられません。もし、Ngaさんに伝えるのだったら、“鳴る”と伝えるのではなく、“振動します”とか“震えます”、もしくは、一度バイブを鳴らして、『時間になったらこのようになります』と伝えれば分かったはずですが、それなのに私は、また捉え間違えやすい言い方で伝えてしまったのです。初心を忘れていた自分に気づき、もう一度自分を見つめ直しました。

そして、改めて言い直すと、一度うなずかれるものの、(いいません)の一言。『なぜですか』と聞くと、(自分が知りたい時間分かりません これ(携帯電話)のここ(表面)に触ってわかる時計つけて欲しい(触読時計)それがいい)と言われるのです。私は、「なるほど」と思いました。Ngaさんの言う通り、もし携帯電話に触れて分かる時計が付いていたら、毎日の生活で最低限必要な時間にはバイブで知らせてもらい、自分の知りたい時間は自分で触って知る。そんな時計があったら、どんなに便利でしょうか。腕時計、懐中時計にバイブが付いたら、盲ろうの方にとっては、今よりも少しは便利な生活が送れるのではないかと思います。

18. これからも…

“水で洗わず食べてもらいたい”“入浴してもらいたい”そのためには、どうしたらいいのだろうか。最初の私の思いは、『この2つのテーマをどう行っていけばいいのか』という所から始まりました。

しかし、接していく中で『どうしたら、Ngaさんの不安を取り除き、安心感を持って頂けるのだろうか』という思いに変わっていきました。

そしてその中で、本当にこの支援で良いのだろうか、私の独りよがりの支援になっていないか等、悩んだり、憤りを感じたり、自分の不甲斐無さを実感したり、泣いたり、笑ったり、本当に色々な思いを抱きました。

最初の1年はNgaさんに私という存在を知ってもらい、そして信じてもらえる存在になることが一番の願いでした。また、一からNgaさんの事を知る大切な時期でした。そして彼の今までの歴史的背景を知り、理解してからの支援は、今までと少し変わったように思います。Ngaさんに情報を伝える時のちょっとした工夫、彼の発信している意思をくみ取る時の姿勢・視線。

そして今日、Ngaさんへの支援は職員全員で行い、食事もおいしく食べてもらえるようになり、少しずつ心の扉が開こうとしています。まだ、完全に開いたわけではありませんが、扉の隙間からかすかな光が見えてきているように思います。

以前から私は、毎日の係わりの中に“握手”を必ず入れていました。なぜなら、こちらからのアプローチを向うが受け入れているか、安心しているか、信じているか等が分かると思ったからです。最初はこちらが握っても、握り返してもらえませんでした。しかし、時間が経つに連れ、時々握り返してくれたり、最近ではうなずかれ、「もう分かっているのにな また握手だよ」と言っているように個人的に感じています。また、私の独りよがりかもしれませんが、Ngaさんが少しずつ受け入れて不安がとけていっているのではないかとと思っています。

ここまで辿り着けたのも、私だけでなく全職員で係わったこと、そして、支援者だけが相手を理解するのではなく、相手にも支援者を理解してもらったことが今日に繋がっているのだと思います。お互いが理解し合えた時、受け入れてもらった時、初めて人の心が開くのだと思います。

まだ、心の底から通じあう事はできていません。また、心からの笑顔を見た事がありません。もしかしたら、このままでないかもしれませんが、でも、心の扉を開く鍵は人だと思います。うれしい時、悲しい時、苦しい時、どんな時も近くにいるのは人です(お互いに励まし合ったり、分かち合ったり...)。人は人との係わりによって変わっていくのではないのでしょうか。

私は、特別な存在になりたいと思っていません。ただ、その鍵のひとつになればと思っています。だから、これからも、彼の心の扉が開くよう、彼の笑顔が毎日見られるよう、Ngaさんの手の平を見つめ、手を握りこれからも日々係わっていきたいと思います。

Ngaさん、少しずつ私たちを受け入れてくれて、ありがとう。いろんな事に気付かせてくれて、ありがとう。まだまだ、不安な事はたくさんあると思います。でも、私たちはあなたの笑顔が毎日見たい。そして、あなたと一緒に笑っていきたい。だから、これからも一緒に...

